

平成 29 年度 第 3 回 ウェルネスプランかこがわ策定委員会
議事録

開催日時	平成 29 年 11 月 28 日 (火) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分
開催場所	加古川市役所 議場棟 2 階 第一委員会室
出席者 (委員)	枝川委員 (委員長)、富永委員 (副委員長)、中野委員、笠谷委員、神代委員、 田村委員、前島委員、丸山委員、北野委員、魚住委員、高瀬委員、春藤委員、 勝山委員、西谷委員
欠席者	なし
事務局	加古川市福祉部 健康課
次第	1 開会 2 議 事 (1) 第 2 次食育推進計画の素案について (2) 第 2 次健康増進計画の見直しの素案について (3) パブリックコメントの実施について 3 その他 4 閉会
資料	第 3 回 加古川市健康増進計画・食育推進計画策定委員会 資料 資料 1 : ウェルネスプランかこがわ策定委員会委員名簿 資料 2 : ウェルネスプランかこがわ策定委員会事務局名簿 資料 3 : ウェルネスプランかこがわ-第 2 次健康増進計画及び第 2 次食育推進 計画- (素案) 資料 4 : ウェルネスプランかこがわ-第 2 次健康増進計画及び第 2 次食育推進 計画-の策定に伴うパブリックコメントについて 参考資料 1 : アクティブガイド (+10 プラス・テン)

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
事務局	1 開 会 資料確認 委員長あいさつ
事務局	2 議事 ウェルネスプランかこがわ素案の第1章・第2章について 資料3（第1章・第2章）に基づき説明
委員	乳幼児から一般市民までのアンケートがありますが、アルコール中毒患者や喫煙者、薬物中毒の方を対象にしたアンケートがあればと思うのですが。
事務局	アルコールに関しましては、質問項目に「適量飲酒」ということで、「1日にどれくらい飲んでいるか」という質問をしております。今回は無作為抽出で18歳以上の方5,000人にアンケートを実施しており、どれくらいの飲酒をされているのか等、まず実態を把握するというアンケートになっています。
委員	特にアルコール中毒患者や喫煙者に対して、集中的に調査を行った方が、効果があるのではないのでしょうか。
事務局	今回のアンケートは、特定の方を対象ではなく、一般の方を対象に無作為抽出で行いました。
委員	20ページの「加古川市の健康課題」の部分について、「血糖に関する値（HbA1c）の有所見者割合（県内市町比較）」のグラフは平成26年のものになっていますが、「腹囲・BMI・HbA1cの有所見者割合（町別割合）」のグラフは平成28年のものになっています。今後揃えられるのでしょうか。
事務局	数値が確定次第、差し替えます。「腹囲・BMI・HbA1cの有所見者割合（町別割合）」のグラフについては、加古川市独自で出しているデータのため、平成28年度まで出ています。全て平成28年度のデータで揃える予定です。
委員	20ページのHbA1cの有所見者割合については、年々増加傾向にあるということを少しご理解頂きたいと思います。
委員	18ページの「(2)健康増進・食育を進めるにあたって力を入れるべき取り組み」のところで、「生活習慣病に対する取り組み」が41.9%で最も多く、次が「運動や身体活動の促進」となっており、「食の安全・安心に関する情報の発信」が22.6%で続いているとありますが、このグラフでみると「食生活・栄養バランスの改善」

事務局	<p>が 26.1%となっているので、これが3番目に多いのではないのでしょうか。</p> <p>文章を訂正させていただきます。</p>
委員	<p>20 ページの「腹囲（町別割合）」のグラフですが、これを見ると加古川町だけが突出しているのが気になりました。また、「BMI」と「HbA1c」を比較した時に、八幡町のBMIが低いにも関わらず、HbA1cに関してはどちらかというとな高くなっています。HbA1cに関しては、それほど町ごとに差はないのかとは思いますが、その理由について、何か分かっていることがあれば教えて頂きたいと思います。</p>
事務局	<p>腹囲に関して、加古川町が突出していますが、これに関してはデータを見直し、修正がかかりそうな状況で、加古川町だけが突出しているということではなさそうです。次回までには、きちんと訂正させていただきます。</p> <p>また、BMIとHbA1cの関係につきましては、まだ分析がきちんと出来ていない状況です。ただ、肥満の方でHbA1cがすごく高いという方だけではなく、非肥満者の中でもHbA1cの有所見者の方が増えてきているという印象は持っています。</p>
事務局	<p>議事（1）第2次食育推進計画の素案について 資料3（第5章・第6章）に基づき説明。</p>
委員	<p>取り組みに関して、「手洗いをきちんとする」や「食中毒に注意する」というような、他のところで書かれてあることでも、家庭と共通するところがあるかと思えます。例えば、137 ページに「正しいお箸の使い方を身につけます」とありますが、家庭でも必要なことであるとも考えられると思います。ただ、そうすると127 ページの部分がさらに膨らんでしまうので、良いのか悪いのかは分かりませんが、少し気になりました。</p>
事務局	<p>ご意見ありがとうございます。食育の取り組みの多くは、家庭につながるものも多くあります。取り組みの柱【1】に偏らないように、5つの柱を設けて、より特色がでるように取り組み内容を分けています。市民の方に広く普及していく際には、ライフステージごとに、5つの柱の内容をふまえた形で普及していきます。計画書の中ではボリュームも考え、5つに分けて記述させて頂いております。</p>
委員	<p>129 ページの「フレイル」という言葉は、皆さんに浸透している言葉であると考えて良いのでしょうか。</p>
事務局	<p>「フレイル」という言葉を用語解説に追加したいと思います。</p>
委員	<p>129 ページの「行政のとりくみ」に「③各家庭の状況に応じた、食事づくりへの参加促進」とありますが、これはどういう意味でしょうか。</p>
事務局	<p>129 ページの指標の中に「⑥食事づくりにほとんど毎日参加する人の割合」とあ</p>

	りますが、調理だけではなく、買い物や後片付けも含めて「食事づくり」と考えて、「できることから参加をする」という意味で書いております。
委員	わかりました。経済状況のことなのかと思いました。
委員	この表現では、確かに読んだ時に少し誤解をしそうな気がします。
事務局	食事づくりの後にどういったものを指すのか、文言を追加します。
委員	⑥の食事づくりのところで、ここの現状値は124ページからとってきたものだと思うのですが、高校生だけが違う数値になっているかと思います。グラフでは「40.4%」ですが、表では「40.0%」となっています。
事務局	どちらの数値が正しいのか確認をし、修正させていただきます。
委員	130ページの⑧と⑨の指標が、64歳までと65歳以上と、きれいに分かれていません。⑨に関しては65歳以上でも良いのかなと思うのですが、⑧に関してはもう少し年齢を伸ばして、その間は部分的に重なってもいいのではないかと思います。
委員	高齢者にベジ・ファーストを進めると、低栄養になるという問題があるので、区切ったかと思います。75歳から後期高齢者なので、70歳くらいまでは成人と同じ食べ方で予防してもいいのではないかと思います。低栄養は70歳以上にすればどうでしょうか。
委員	年齢の線は区切ってしまった方がいいでしょうか。
委員	重なってしまうと「どちらを選んでいいのか分からない」というような、一般の方が多いかと思います。
委員	70歳くらいまで働きましようという雰囲気も社会的に出てきているので、どうかと思ったのですが。
委員	65歳までは現役、という感じもします。
委員	糖尿病の患者さんの年齢が上がっていった時に、いつまで制限をするのか、いつから低栄養に気を付けないといけないかというのは難しい問題で、病院でも悩ましいところだと耳にしたことがあります。年齢で分けるのは難しいかと思います。かかり当てはまるわけではないですが、決めとかないと迷ってしまうということもあるので、難しいかとは思いますが。
委員	糖尿病に関しては、学会で専門医の方が75歳以上のところで線引きしています。75歳を過ぎたら、糖尿のコントロールの目標値が緩くなります。低血糖にならな

	<p>いことを主眼において、コントロールを相当緩めます。少し緩めても結果はあまり変わらないというデータも出ています。ここの部分を糖尿病に合わせると、64 歳までが、74 歳までということになりますね。</p>
委員	<p>確認ですが、129 ページの表の上は「現状値 平成 29 年」、「目標値 平成 34 年」、「現状値の算出資料」となっているのですが、130 ページになると「現状値 平成 24 年」、「中間評価 平成 29 年」、「目標値 平成 34 年」となっています。どちらが正しいのでしょうか。</p>
事務局	<p>129 ページが正しい表記となっておりますので、130 ページも同じように修正させていただきます。</p>
委員	<p>いずみ会の活動をしていても、高齢化してきており、75 歳以上の方が多いです。食事の内容等を聞いていると、75 歳までの方は野菜を先に食べるということにしています。75 歳のラインを超えると、「体力をつけないといけない」「栄養のあるものを食べないといけない」というような話題に変わってくるので、ベジ・ファーストに関しては、70 歳くらいでも差が無いような気がします。この指標に関しては、64 歳ではなく 74 歳くらいが適正ではないかなと思います。</p> <p>糖尿病の話ですが、自身の周りで糖尿病を患っている方をみると、低栄養の方は少ないです。食べることが好きな方も多いので、ベジ・ファーストに関しては少し年齢を上げて良いのではないかなと思います。</p>
事務局	<p>指標⑧と⑨の対象年齢について修正が必要と考えております。</p>
委員	<p>個人差がありますので、なかなか数値を決めるのは難しいかと思いますが、⑧を 74 歳までとし、⑨を 75 歳以上にするというかたちで、一度まとめてよろしいでしょうか。</p>
委員	<p>⑧は 74 歳までとし、⑨は 70 歳以上とするのはどうかという意見もありましたが、全体的にご意見を伺って、年齢が重なってもいいのかなと思いました。統計的にそこまで有意差が生まれるところではないのではと思います。</p>
委員	<p>指標の④と⑤なのですが、乳幼児と小学生だけが対象になっていて、中高校生を目標値としては設定されていないのはなぜでしょうか。</p>
事務局	<p>第 1 次計画では、中高校生も目標値を設定していたのですが、今回見直しをし、朝食や挨拶の習慣化に関しては、乳幼児と小学生の時期に定着させることが大事であると考えます。第 1 次計画では中学生と高校生の評価は、目標値は達成していなかったものの、進捗がみられたので、今回は乳幼児期と小学生に絞っております。</p>
委員	<p>目標値で「100%」というものがいくつかありますが、高い目標の持ち方でよろしいでしょうか。</p>

委員	133 ページの行政の取り組みのところで、中学校・高校に関しては、「技術家庭科や保健体育などにおいて、学習指導要領に沿った食育授業の実施」というように書いています。アンケートの中で、高校生までは朝食を食べている割合も高かったと思うのですが、18 歳以上では朝食の欠食割合が増えており、さらに進学等で1人暮らしを始めた時など、食べなくなってくるのかと思います。この学習指導要領の中身がどのようなものなのかは分かりませんが、例えばパンや牛乳、果物だけ、あるいはキュウリ1本やトマト1個でも食べれば、バランスのとれた食事になるというようなことを教えてあげると、「朝ごはんを食べる」ということも続いていくのではないかなと思います。その辺りをもう少し盛り込んで頂ければと思います。
事務局	現在の高校との関わりとしては、いずみ会の方に市内数箇所では高校生を対象とした食育活動を実施して頂いています。その中で、1人暮らしになっても出来るような料理等も普及していますので、引き続き取り組みを続けていきたいと考えております。
委員	ここで、小学校を外した理由は何かあるのでしょうか。
事務局	その1つ上に「各校園における食に関する年間指導計画に基づく食育活動の実施」があります。各学校でも、食育に関する指導計画に基づいて活動していると思いますので、そこに含まれているのかと思います。
委員	それであれば、1つ目も2つ目も「各校園」でいいのではないかと思います。わざわざ、なぜ小学校だけ外したのかと思いました。
事務局	「技術家庭科」「保健体育」という科目が、小学校にあるのかどうか、ということもあるかと思います。
委員	高学年だけです。小学校でも食育はやっていますが、この文言には当てはまらないということで、書かれなかったのかもかもしれません。
委員	評価指標に「研修の受講率」とありますが、この「研修」とは具体的に何を指しているのでしょうか。
事務局	学校の教職員を対象とした食に関する研修会や講座があると聞いております。そして毎年、各学校における「教職員の食に関する研修を受講した割合」を調査しており、その数値を載せています。
委員	おそらく、研修を受けるのは食育担当者や、栄養教諭だけで、その後に校内で研修内容を広めていき、指導していく形であると思います。指標の「17.9%」の教員しか研修を受けていないということではありません。
事務局	教育委員会と相談させていただきます。

委員	<p>「②家庭・地域と連携した取り組みを行った回数」についてですが、「146回」というのは、少なすぎるのでしょうか。回数を増やすだけで良いのか、という疑問を持ちました。お便りの発行なども数には含まれているようですが、回数よりも内容ではないかと思います。実際に子どもが何か体験できるなど、具体的に内容を向上させるような目標の方が良いのではないかと思います。</p>
委員	<p>「②家庭・地域と連携した取り組みを行った回数」について、「すべての学校園」とありますが、これは認定子ども園と保育所も含まれた回数なのでしょうか。</p>
事務局	<p>「②家庭・地域と連携した取り組みを行った回数」に関しては、「学校園」となっており、認定こども園や保育所は入っていないです。</p>
委員	<p>そうなると、認定こども園と保育所は、指標に1つも入っていないということですが、保育所等でも食育に関して連携や取り組みを進めているところを、反映していないように感じたのですが、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>「認定こども園・保育園」と「小学校・中学校・高校」というように、指標を2つ設定してもいいのかもしれないですね。</p>
委員	<p>行政の取り組みの1番目に「①認定こども園・保育所における食育を推進します」と、新しい項目で入れていますが、実際のところはデータとして反映されていないというところですか。今回はまだ、数値として上がってきていないだけなのかもしれませんが、目標にも認定こども園と保育所も入ってしかるべきかと思います。</p>
事務局	<p>担当の幼児保育課と相談させていただきます。</p>
委員	<p>「栄養教諭」というのを、あまり世間の方は認識されていないと思います。ご説明頂けたらと思います。</p>
委員	<p>全校ではありませんが、給食を行っている学校に配置されています。栄養士の中で子ども達に授業もできる資格を持ったものを「栄養教諭」といいます。学校ではもちろん給食の管理も行っています。また、それぞれのクラスで、食育の授業をしています。給食だけではなく、家庭科のサポートなど、1年生から食べ物に関する知識や望ましい食生活の仕方を指導する仕事が、栄養教諭にはあります。</p>
委員	<p>138ページの「③食文化の継承に向けた取り組みを推進します」というところで、「認定こども園・保育所や学校での、郷土料理や行事食を取り入れた給食の提供」とあるのですが、それに加えて家庭でも簡単につくれるようなレシピを出して頂けると、家でも子どもと一緒に作るというようなことに繋がるのではないかなと思います。</p>
委員	<p>138ページに「<small>えこがわなべ</small>恵幸川鍋」と「加古川ギョツとメシ」というものがあるのですが、</p>

事務局	<p>取り組みを紹介して頂きたいと思います。</p> <p>「^{えこがわなべ}恵幸川鍋」に関しては、いくつか決まり事があります。1つ目は「地産地消」、2つ目は「岡田本家さんの酒粕を使うこと、高松味噌の味噌を使うこと」、3つ目は「旬産旬消」、4つ目は「販売しているお店のこだわりを盛り込む」5つ目は「^{えこがわなべ}恵幸川鍋と加古川を愛する皆のもの」とする決まりがあります。加古川市内のお店でも販売されています。</p> <p>「かこがわギュッとメシ」というのは、今年の2月に開発されたばかりの料理で、加古川市は「牛肉を使いこなす街だ」ということで、みそ漬けの牛肉というのが定義になっており、食べる途中で御出汁や薬味を使うなど、色々な味を楽しむことのできる工夫がされてあれば、「かこがわギュッとメシ」として認定されます。今年の2月にできたばかりのものなのですが、今後普及啓発していこうと考えています。</p>
委員	<p>どちらも、各店舗によって全て違うのですよね。すごく美味しかったです。もっとPRをして、加古川市の名物の1つになればという想いがあります。</p>
委員	<p>「かこがわギュッとメシ」は、加古川市の観光振興課が昨年、加古川市の地元の牛肉で新しいメニューを募集してできた料理だと思います。本学の学生も少し参加させて頂いて、「かこがわギュギュッとパン」というものを作って、好評して頂いています。このように出していく事で地域の方に広がって、「かつめし」の「のぼり」が広がっていくかと思しますので、今回PRの意味でここに載せるのも良いかと思えます。</p>
委員	<p>指標「①食品の安全性についての知識を持っている人の割合」では、18歳以上で「71.7%」が認識しているのは、レベルによるかとも思うのですが、「高い」というイメージなので、目標はこれくらいで良いと思います。「②栄養成分表示」については、食品の表示が大きく変わっていったところなので、その辺りを間違えなく理解してもらえようように活動するということが大切であると思います。</p>
委員	<p>「①食品の安全性についての知識を持っている人の割合」については、この知識のレベルは「賞味期限」などのことなのか、「中に入っている色素や保存料」のことなのか、それによって安全の知識のレベルも変わってくるのかと思いますが、「賞味期限」で書かれているのではないかなという印象です。</p> <p>「③非常用食料などを備蓄している人の割合」について、加古川市は災害が比較的少ない地域なのですが、最近色々な自然災害が増えていますので、もう少しこの目標値に関しては、意識を持っていただけるよう「50%」くらいに上げて頂いた方がいいのではと思います。</p>
委員	<p>それでは、「③非常用食料などを備蓄している人の割合」に関しては「50%以上」で修正をお願いします。</p>

委員	<p>「食品ロス」の問題については、今は高齢化で家庭の人数も減っているのです、小パックで少量のものを売ることや、賞味期限が過ぎていても問題ないということや、見切り品として値段を下げたものを選んで頂くなど、できるだけ食品ロスを出さないようにする。そして、まず冷蔵庫の中身を見て、何があるのか、古いものがないのか確認してから買い物に行く。そういったことを意識するということが大切だと思います。</p>
委員	<p>「賞味期限」と「消費期限」の区別がついていない方もまだいると聞きます。「賞味期限」というと、本来は「美味しく食べてもらえる期限」なのですが、それを安全性と直結して考えられるので、かつてのように、製造年月日を表示して、お召し上がりの目安として何カ月か、という書き方が良かったのかなと思います。</p> <p>また、実際では流通の問題があって、今改善をしようという動きが出てきています。「できるだけ新鮮で新しいものが良い」という消費者の考えに合わせていった流通の問題だと思います。</p> <p>その辺りは最近取り上げられており、業界の中でももう少し緩和できないかという動きがあります。一つの企業だけではできないので、食品流通全体の中で出来ないかと動いている状況です。</p>
委員	<p>取り組みの方向に「(3) 体験活動による「農」への理解を促進します」とあります。世間一般で野菜の値段が高くなると、皆さん「最近野菜が高い」とついつい口に出して言ってしまいます。ベジ・ファーストの推進のためにも、「野菜が高くて食べられない」と言うのをやめた方が良いと思います。</p>
委員	<p>146 ページの「鹿児島の華米」や「志方健やか米」については、皆さんご存知でしょうか。「鹿児島の華米」というのは牛糞堆肥で、「志方健やか米」はヘアリーベッチというマメ科の植物を緑肥として使っており、化学肥料は一切使っておりません。農薬に関しても慣行栽培の約半分ということで、県の認証を受けてつくっています。ところが、なかなか皆さんにPRできていないので、イベントなど、もっと交流を盛んにやっていきたいと思っています。</p>
委員	<p>144 ページの「(4) 認定こども園・保育所・学校園における食に関する体験活動の状況」について、文章の中に「38 園のうち 37 園」というような数字が入っています。これは平成 28 年度のものでしょうか。平成 29 年度はすでに 40 園となっていますし、その後はさらに増えていくかと思しますので、あえて数字が他の内容に影響しないのであれば必要ないのではとも思います。</p>
事務局	<p>検討致します。ありがとうございます。</p>
委員	<p>行政の取り組みで「農の 6 次産業化の推進」と書いていますが、私たちも、地元の米や大豆を使った味噌づくりなどを 6 次産業化として計画しています。加古川市でもっと推進して欲しいと思います。</p>

委員	150 ページの「個人の取り組み」の中の「食を楽しみ、自分ができることを探して自分らしい食育活動を実践します」とありますが、意味があまり分からないので、具体的に教えて下さい。
事務局	食育は幅広い分野にまたがっており、様々な取り組みがある中で「自分がこれならできる」というような取り組みを探すということ意味を含んでいます。子どもであれば「お手伝いをする」や「好き嫌いをせずに食べる」また、農林漁業祭などの食のイベントもあるので、できることから取り組んで、実践してもらいたいと思っています。
委員	何もない状況で探すというのは、なかなか難しいと思うので、下の方に記載されている「食育の日」のように、毎月 19 日食育のことについて考えるというのは良いと思います。「野菜を 1 皿増やしましょう」ということも言われていたので、「この日は増やしてみよう」というように、何か目標を持ってやれば、自分のできることを探せるのかなと思います。まずは、「食育の日」を広めていって欲しいと思います。
委員	149 ページの「(3) 地域での食育活動状況」についてなのですが、平成 28 年度で活動回数も会員数も減っています。平成 29 年度もまた減る可能性があるかと思うのですが、そもそもここではどういった活動をされているのか、少し教えて頂けたらと思います。
委員	<p>推進員の減少に関しては、単なる高齢化です。若いお母さんにも働きかけているのですが、皆さんお仕事をされていて、平日の活動に誘いにくいという現状があります。この先頑張って会員数を増やそうという動きはあるのですが、なかなか光が見えてこず、何か対策を練らなければいけないと、日々奮闘しております。</p> <p>活動内容については、保育園に出向いて食育の遊びを行ったり、子育てプラザで小さいお子さんやお母さん相手に調理をしています。小学校への食育や、中学校ではトライやるウィークで、食育事業に参加してもらっています。</p> <p>高校生にも、調理実習や栄養士の方に栄養指導をして頂いています。高齢者には、パッキングを最近は広めております。</p>
委員	「(3) 食育の推進に関わるボランティア数の増加」について、なかなかハードルが高いかなと思います。
委員	いずみ会の現場の声も聞いて、この数字を見直して頂くという事をお願いしたいと思います。
事務局	議事(2)第2次健康増進計画の見直しについて 資料3(第4章)及び参考資料1に基づき説明。
委員	69 ページについて、がん検診等の向上のためのインセンティブということで、

事務局	<p>ポイント制度があると思うのですが、これは具体的にどのようなになっているのか。</p> <p>ポイント制度についてですが、平成 28 年度は健康部門の方でも実施しておりますが、現在、加古川市のがん検診等を受診された際に、ポイントが付与される仕組みになっています。医療機関によって、ポイントを付与できない場合もありますが、その際は市役所に来て頂いて、ポイントを付与するという仕組みになっています。これについては「健診部門」ということになるのですが、その他加古川市の健康課で実施している健康講座等を受けて頂いても、ポイントが付与されるようになっています。</p>
委員	<p>喫煙防止や飲酒の関係でも、飲酒が減ったらポイントが増えるというようなことも良いのではないかと思います。</p>
委員	<p>84 ページの【7】歯と口の健康」のところで、「かかりつけ歯科医をもち、1 年に 1 回は定期検診を受診します」という文言になっていますが、日本歯科医師会の指針では「半年に 1 回」となっております。検診を受けるほど効果が上がるという調査結果も出ておりますので、ご検討頂けたらと思います。</p>
事務局	<p>「1 年に 1 回以上」という表記に変えさせて頂きたいと思います。</p>
委員	<p>62 ページに「地域活動に参加する人」の 60 歳以上の割合は増えていますが、60 歳未満では減っているとあるので、ここに関してもう少し分析を行って頂き、追加検討して頂けたらと思います。</p>
委員	<p>行政の方で、ポイントであるところには設問の設け方を工夫して頂き、課題が把握しやすいように、もう一步掘り下げられるように努力して頂けたらと思います。</p>
事務局	<p>議事（3）パブリックコメントの実施について 資料 4，5 に基づき説明。</p>
委員	<p>それでは、以上を持ちまして本日の議事の進行を終了させて頂きます。</p>
事務局	<p>3 その他</p> <p>閉会あいさつ</p> <p>4 閉会</p>